

公表

事業所における自己評価総括表【児童発達支援】

○事業所名	こぼんはうすさくら志木教室		
○保護者評価実施期間	2024年 10月 30日		～ 2024年 11月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28	(回答者数) 28
○従業者評価実施期間	2024年 11月 10日		～ 2024年 11月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	2024年 11月 21日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	○日替わりのプログラム 通っていただいている児童に合わせた、日々のプログラムの提供により児童が様々な経験や体験ができるものとなっている。公共の場でのルールやマナーを経験し理解できるものを今後も取り入れていきたいと考えている。	○保護者参加型プログラムやイベントの開催 児童のためはもちろんのこと、保護者様にも寄り添った事業所となれるように、成長を感じられるプログラムや一緒に楽しんでいただけるプログラムの提供を心掛けている。	交流会も含めイベント等はたくさんの評価をいただいている。今後はより充実した内容になるようにプログラム後の勉強会等を検討していきたい。
2	○集団中での個別アプローチ 個別どちらにも専門職(OT・ST・PT)が介入することで納得度の高い支援を提供出来ているのではないかと考える。ことばの教室など、専門知識が求められるクラスの実施	○専門的支援者からの分かりやすいコミュニケーション 保護者へ一方的に話を進めていくのではなく、保護者さまから普段の悩みやお子様のこと以外でのお悩みなどを聞き取り、話しやすい環境を設定していきます。その時間を設け、お子様の事、家庭のことを専門的知識でアドバイスなどを送る。	・定例研修をより充実していく。様々なノウハウを支援員一人ひとりに伝えていくことで少しでも支援の質を上げていく。
3	○保護者への多様なアプローチ 保護者同士の交流の場を通して、保護者の交流やコミュニティの拡大。また参加して子どもと一緒に楽しむ時間を設けており、育児に関する悩みや情報を共有できる機会を提供することで、子どもたちの成長を見守る安心感と信頼感が生まれる。	○地域との情報共有 ご家族だけではなく、園や学校・相談支援事業所や市の相談室などへこぼんの取り組みや実例などを説明し、見学などに来ていただき、私たちの役割(できること・できないこと)を知らせている	○専門的なアドバイスの強化 専門職からの助言等を増やし、保護者が日常生活で活用できる具体的な方法を学べる場を提供の実施を検討していきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	○相談しやすい環境の整備 定期的な面談や支援は実施していますが、「設定されない」などの意見もいただいています。相談しやすさにも課題があると認識しており、保護者が気軽に相談できる環境を整えることが必要と考えています。	・具体的な助言や相談しやすい環境が不足している主な要因として、保護者が気軽に相談できる環境が十分に整っていない ・保護者が忙しい日常の中で相談の時間を取ることが難しい場合や、相談をためらってしまう雰囲気が存在する可能性があります。	・担当者や相談場所を明確にお知らせし、窓口や気軽に参加できることをわかりやすく行うことで、保護者が気軽に相談できる環境を整えます。 ・常に開かれている相談窓口を周知徹底
2	○災害対策の実施と周知 避難訓練が行われているかわからないのご意見を保護者からもらうHPなどでご様子をご確認いただいたり、教室での災害対策がしっかりと行われていることを周知する体制を整える。	災害時の職員体制に関しては、契約時に資料をお渡ししご説明していますが、それ以降に説明等を行う機会を設けていないため、安全対策に関する周知が不十分な状態です。	・できるだけ避難訓練にご参加いただけるよう、避難訓練プログラムの周知徹底 ・避難訓練実施日に避難経路や災害対策を記載したお知らせを配布し、ご参加いただけなかった保護者様にもご理解をいただく。
3	○活動スペースの見直し 部屋数に限りがあるため、その中でも空間を仕切るなど、より児童が安心して楽しめる環境作りを行う。また、床が硬めの材質である	法令上は全く問題ない広さだが、保護者の方へのどのような工夫をしているかを周知できていなかった。 保護者が目に触れる機会が少なかったのではないかと、ということが考えられる。	児童1人ひとりへ確立されたスペースがあることを保護者会やお手紙などで説明していく。 保護者の方々へ見学会などを定期的開催し、実際を見ていただく。

公表

事業所における自己評価総括表【放課後等デイサービス】

○事業所名	こぼんはうすさくら志木教室		
○保護者評価実施期間	2024年 10月 30日		～ 2024年 11月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28	(回答者数) 28
○従業者評価実施期間	2024年 11月 10日		～ 2024年 11月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	2024年 11月 21日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<p>○他機関との連携 学校や相談支援事業所へのコミュニケーションを多くとっている。 ・学校へは対象児童の課題感の擦り合わせや、目標の設定などをおこない協働を意識した関わりを行う ・相談支援事業所へは、教室状況やこぼんでの取り組み内容やイベントの招待などより深い関わりを目指したコンタクトをとっている</p>	<p>他事業所、学校等との連携を密にとるようにしている。お子様の事業所以外の様子を知り、継続したモニタリング実施、支援の方向性に大きな相違がないようにしている。保護者様にも共有している。</p>	<p>相談支援事業所、中学校や高校などともつながりを強くしていきたい。児童の成長をさらに伝わりやすく共有する方法を考える。</p>
2	<p>○日替わりのプログラム 通っていただいている児童に合わせた、日々のプログラムの提供により児童が様々な経験や体験ができるものとなっている。公共の場でのルールやマナーを経験し理解できるものを今後も取り入れていきたいと考えている。</p>	<p>○保護者参加型プログラムやイベントの開催 児童のためはもちろんのこと、保護者様にも寄り添った事業所となれるように、成長を感じられるプログラムと一緒に楽しんでいただけるプログラムの提供を心掛けている。</p>	<p>交流会も含めイベント等はたくさんの評価をいただいている。今後はより充実した内容になるようにプログラム後の勉強会等を検討していきたい。</p>
3	<p>○保護者への多様なアプローチ 保護者同士の交流の場を通して、保護者の交流やコミュニティの拡大。また参加して子どもと一緒に楽しむ時間を設けており、育児に関する悩みや情報を共有できる機会を提供することで、子どもたちの成長を見守る安心感と信頼感が生まれる。</p>	<p>○地域との情報共有 ご家族だけではなく、園や学校・相談支援事業所や市の相談室などへこぼんの取り組みや実例などを説明し、見学やなどに来ていただき、私たちの役割(できること・できないこと)を知らせている</p>	<p>○専門的なアドバイスの強化 専門職からの助言を増やし、保護者が日常生活で活用できる具体的な方法を学べる場を提供の実施を検討していきます。</p>

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<p>○支援における利用頻度の説明 利用を増やしてほしい理由が伝わっていない=適切な支援内容やなぜこの頻度でこの曜日で、支援が必要かが伝わっていない</p>	<p>・発着管からの計画書の説明時における、「利用回数も含めた支援内容」を丁寧に説明しなくてはいけない ・支援はPDCAの要素が多く含まれ、たくさんの計画→実践→モニタリングという流れが必要だと、説明がし切れていない</p>	<p>・日々の保護者とのコミュニケーションで、児童の支援の進捗状況や課題感を報告 ・定期的なモニタリングで保護者に納得していただく報告を実施する</p>
2	<p>○相談しやすい環境の整備 定期的な面談や支援は実施していますが、「設定されない」などの意見もいただいています。相談しやすさにも課題があると認識しており、保護者が気軽に相談できる環境を整えることが必要と考えています。</p>	<p>・具体的な助言や相談しやすい環境が不足している主な要因として、保護者が気軽に相談できる環境が十分に整っていない ・保護者が忙しい日常の中で相談の時間を取ることが難しい場合や、相談をためらってしまう雰囲気が存在する可能性があります。</p>	<p>・担当者や相談場所を明確にお知らせし、窓口や気軽に参加できることをわかりやすく行うことで、保護者が気軽に相談できる環境を整えます。 ・常に開かれている相談窓口を周知徹底</p>
3	<p>○災害対策の実施と周知 避難訓練が行われているかわからないのご意見を保護者からもらうHPなどでご様子をご確認いただいたり、教室での災害対策がしっかりと行われていることを周知する体制を整える。</p>	<p>災害時の職員体制に関しては、契約時に資料をお渡ししご説明していますが、それ以降に説明等行う機会を設けていないため、安全対策に関する周知が不十分な状態です。</p>	<p>・できるだけ避難訓練にご参加いただけるよう、避難訓練プログラムの周知徹底 ・避難訓練実施日に避難経路や災害対策を記載したお知らせを配布し、ご参加いただけなかった保護者様にもご理解をいただく。</p>